

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2472800594
法人名	有限会社リリーフ式千壱
事業所名	有限会社リリーフ式千壱 長閑村
所在地 (電話番号)	度会郡度会町小萩610 (電話) 0596-65-0868
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 8 月 29 日(金)

【情報提供票より】 (H20年8月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6人, 非常勤 3人, 常勤換算 8.2人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋瓦葺 造り (一部増築)		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,000~35,000 円	その他の経費(月額)	28,000 円~
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,200円		

(4) 利用者の概要(8 月 11 日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名
要介護3	3 名	要介護4	名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 83 歳	最低 72 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松阪厚生病院 寺村内科クリニック 田岡歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

町内南部を流れる一ノ瀬川の支流小萩川近くの森と田畑を望める閑静な地に古民家を増改修した「長閑村」の名称に相応しい、度会町唯一のグループホームである。事業所は土地の人々に受け入れられ、地域活動に積極的に参加している。事業所内は利用者と職員の話し声の絶えない、家庭的で和やかな雰囲気を醸し出している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>昨年の外部評価懸案項目も運営推進会議に老人会長の参加、金銭管理の月例報告及び相談・苦情窓口の明記は検討され改善されている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者の理解のもと管理者及び全職員が参画してまとめられている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>3~4ヶ月毎に開催されており、直近では8月に催されている。会議は区長、民生委員、老人会長、町福祉課職員及び利用者家族代表を外部メンバーとして現況報告、地域交流や運営上の意見交換等行なわれている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月「のどか村新聞」に生活の様子を写真で掲載し、担当者のコメントを添えて報告している。また、健康状態に変化があった時など随時電話で状況報告すると共に、職員は家族会や面会時の意見要望に対応するよう心掛けている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地区の自治会に加入し清掃作業に参加したり、夏祭りを催したりしている。また、地区連合の老人ふれあい会や小学生との交流会に参加するほか、近隣の方との会話も弾み、採れたての野菜を頂いたりし交流を深めている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営者以下職員は、地域に根ざした家庭的な環境の下で、利用者と共同生活を営み支援することを基本理念に掲げている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に運営方針等と共に理念を掲示し、管理者のリーダーシップのもと、日々の申し送りやミーティング等機会あるごとに話し合い、実践している。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の自治会に加入し清掃作業に参加したり、夏祭りを共催したりしている。また、地区連合の老人ふれあい会や小学生との交流会に参加するほか、近隣の方との会話も弾み、採れたての野菜を頂いたりし交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は管理者及び全職員が参画してまとめられている。また、昨年の外部評価懸案項目も老人会への加入、金銭管理の月例報告及び相談・苦情窓口の明記は検討され改善されている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3～4ヶ月毎に開催されており、直近では8月に催されている。会議は区長、民生委員、老人会長、町福祉課職員及び利用者家族代表を外部メンバーとして現況報告、地域交流や運営上の意見交換等行なわれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者、管理者、計画作成担当者は町福祉課の介護保険及び地域包括支援センター職員と機会を見つけては情報交換している。また、管理者や職員は町が催す介護予防のための機能訓練や認知症サポーター養成研修の講師として地域に関わりつつある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「のどか村新聞」に生活の様子を写真で掲載し、担当者のコメントを添えて報告している。また、健康状態に変化があった時など随時電話で状況報告すると共に、面会時に近況報告や金銭出納簿の確認をしてもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談機関として事業所の窓口の他、町や国保連合会の窓口を明記している。また、職員は面会時に会話を多く持ち意見要望に対応するよう心掛けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は地域に根ざした家庭的で楽しくコミュニケーションのとれた職場を目指し職員の定着を図っている。また、管理者及び全職員は利用者一人ひとりと馴染むよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会や県、町主催の研修会等に管理者以下全職員を適宜派遣している。それらの内容は毎月の勉強会で伝達している。また、各種資格取得等自己啓発を促している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の勉強会、見学会、報告会等に参加し交流の輪を広げている。また、隣町のグループホームとはみかん狩り、イチゴ狩り等利用者共々相互訪問し、交流を深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や本人に面談し、生活状況やそれぞれの希望や意向等の聞き取りを経て、家族の見学や更なる面談を通じて雰囲気を理解してもらっているが、本人の見学希望や体験入居はなくサービス開始に至っている。この場合、管理者、職員は家族等の面接を勧めたり、本人に付き添い、孤立せず馴染める支援に努めている。	○	本人と家族一緒にの事業所見学や利用者と一緒にゲームをしたり、お茶やおやつを楽しんだり、或いは、数日の体験入居等提案され、より安心感をもってサービスを利用できる態勢作りを期待する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	戦時中の話や昔話を聞かせてもらったり、裁縫の針使いや料理の味付けを教わったり、今昔のファッション談義をしたり和気藹々とした雰囲気を共感している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりのアセスメント記録類や日々の暮らしから把握するよう努めている。意思疎通が困難な場合は、家族等からの情報や日々の本人の表情や態度等から検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントシート等を基にした本人、家族、主治医等からの意見並びにその後出された家族の意見や、職員の日々の申し送り、会議での意見交換をもとに課題を探り出し介護計画書を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに見直しを行っている。利用者の状態変化に応じては本人、家族及び職員等の意見をもとに随時見直ししている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師2名を配し、医療連携体制を生かした支援をしている。また、本人、家族の状況に応じて、通院やショッピング等の送迎を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始前からのかかりつけ医での受診を継続すると共に事業所の協力医とも連携し合っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	サービス開始後、健康状態等適当な時期をみて本人、家族と重度化した場合の要望や終末期の方針を話し合っている。また、ケアに当たって全職員は、本人、家族の思いを大切にして、主治医と連携をとり、対処できるように常日頃から話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライドを傷つけないよう態度、言葉かけ等意識を持って接している。また記録書類の取扱いにも気をつけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決められているが、一人ひとりの「生活歴調査書」から体調、精神面を把握し、その時々々の本人の気持ちを尊重して対処している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	チラシから利用者の希望や季節の食材を取り入れたり、菜園の野菜を使ったりして、配膳や後片付けは利用者も手伝っている。また、職員も同じテーブルを囲み、食事を和やかな雰囲気を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2日午前中の中の入浴をベースにしているが、要望があれば他の時間帯での入浴も可能にしている。また、入浴を拒む利用者には前もって一緒に着替えを用意したり、不安を取り除く声かけをし、強要することの無いよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干しやたたみ、部屋の掃除、雑巾がけ、配膳草取り等の役割を持ってもらい、職員は感謝の言葉かけをしている。また、カラオケ、トランプゲーム、畑仕事、散歩等の楽しみや酒、たばこ、喫茶等の嗜好で気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	広い敷地内での畑仕事、日光浴や近隣への散歩(3コース)に出掛けている。また、時には車での行楽、ショッピングに出掛けたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室及び玄関等出入り口は無施錠でオープンである。職員は一人ひとりの行動パターンを把握しており、見守りが徹底している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年3回(3月、8月、12月)防災訓練を計画して実施し、3月には夜間を想定した退避訓練をしている。また、緊急連絡網の整備や非常食の備蓄もされている。更に、地区の消防訓練や防災マップ作りに参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の献立は栄養分が偏らないように気をつけている。一人ひとりの食事や水分摂取量は介護記録表にチェック記録され、体重の変化にも気を配っている。また、メモリ付きのカップにお茶を準備し居室等での水分補給に気をつけている。	○	献立の栄養バランスは蓄積されたレシピ等をもとに考えられているが、町役場か学校等の栄養士の方に献立をみてもらうなど、専門的な観点からアドバイスを受けてみられることを期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は広い2部屋続きの和室で、座卓やソファも置かれ全員がゆったり寛げる配慮がされている。居間の廊下からは庭に下りられ、前には季節を感じる景色が広がっている。また、台所、食堂、廊下、浴室、トイレは段差の解消、手すり取り付け等工夫した改修がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れた箆笥、鏡台、日用品等持ち込まれ、利用者の居心地のよさに配慮している。		